一般社団法人
日本建築学会

建　築　文　化　週　間　2024

トウキョウ建築まち歩き

ブラ田町

今年は、日本建築学会のお膝元、田町駅の周辺を歩きます。ただし、ナビゲータは同行しません。ナビゲータは開催日に建築会館中庭の特設「まち歩きデスク」に常駐し、随時、見どころを解説します。参加証を兼ねたこの「まち歩きMAP」を片手に田町とその周りをブラブラしてください。

日時：10月12日（土）、13日（日）10:00～17:00
見学先：「建築会館」より概ね2km圏内
出発地：建築会館中庭「まち歩きデスク」（東京都港区芝5-26-20）
ナビゲーター：大森晃彦（建築メディア研究所代表）
対象：どなたでもご参加ください。
定員：制限なし
参加費：無料
申込み：事前申込み不要。「まち歩きデスク」で参加登録。
出発地の建築会館中庭「まち歩きデスク」へ直接お越しください。

■地形と歴史

東京の地形は、西側の洪積台地と東側の沖積低地に大別できるが、田町周辺は、低地が狭くなり台地が海に迫っている場所である。古川による浸食によって、北側の飯倉台地、麻布台地、三田段丘と南に続く高輪台地、白金台地が形成されている。

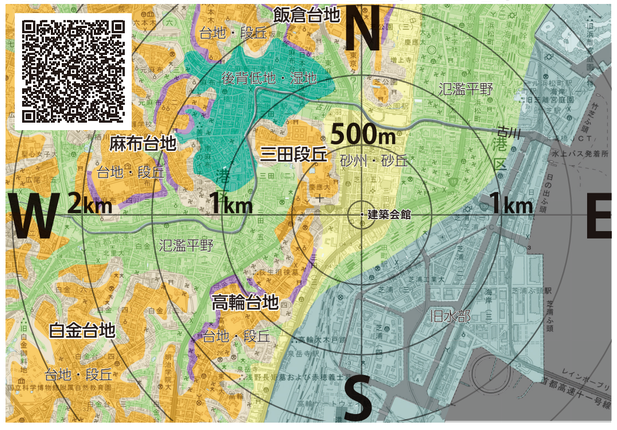
江戸幕府は関が原の戦いの翌年の慶長6（1601）年に、高輪台地や三田段丘の上を通っていた古道に対して、当時は海岸沿いの低地だった現在の国道15号線の位置に新しい東海道を設置した。この東海道の両側に張り付いた1km以上ある細長い町が田町（現在の田町駅前から高輪大木戸跡まで）で、田町という地名は低地の水田が東海道開通とともに市街地化されたことに由来するといわれている。

現在の田町駅の海側には埋立地が広がっているが、江戸時代には田町駅を含む周辺は一部の埋立地を除きほぼすべて海であったことが江戸末期の「江戸切絵図 芝高輪辺絵図」（嘉永2/1849年-文久2/1862年）からわかる。

田町駅南側の現町名「芝浦」は、芝の浦、すなわち芝の海岸が由来とされるが、浮世絵では海上を芝浦と題して描いている。現在の田町駅東側の第一京浜と線路の間がかつての砂浜で、「雑魚場」と呼ばれ、湾内の小魚を水揚げしていた。古典落語の「芝浜」の舞台である。

明治5（1872）年に開通した新橋横浜間の鉄道は、本芝から高輪海岸を経て品川停車場までの約2.7kmの区間、海上に建造した築堤の上を走っていた。近年注目されている「高輪ゲートウェイシティ」の敷地で2019年に発見された「高輪築堤」7はその一部である。高輪築堤の調査では、開通時は単線で、明治9（1876）年の複線時、明治32（1899）年の3線時にいずれも陸側に拡幅されていることが判明している（港区教育委員会、2021年）。

地理院地図（標準地図+地形分類（自然地形））※図中の紫色は「崖・段丘崖」、ベージュは「山地」



1 三田段丘――慶應義塾大学三田キャンパス

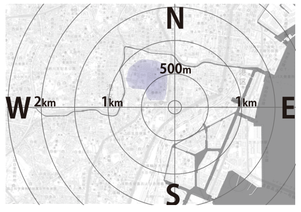
「建築会館」の中庭を抜け、慶應仲通り商店街を西に進むと「三田二丁目」の交差点に出る。北西にある高台の三田段丘の上が「慶應義塾大学三田キャンパス」。「図書館旧館」（曽禰達蔵・中條精一郎、明治45/1912年）の2階には「慶應義塾史展示館」（2021年、日・祝日は休館）がある。

キャンパス内で最も古い建物は「三田演説館」（明治8/1875年、非公開）で、関東大震災で被災し撤去された「本部（講堂）」に接続して建っていたが、震災後の大正13（1924）年にキャンパス南西部の稲荷山に移築され、跡地には「塾監局」（曽禰中條建築事務所、大正15/1926年）が建てられた。キャンパス内にはこのほかに、槇文彦による「図書館新館」（1981年）、「大学院棟」（1985年）がある（※棟は慶應義塾大学工学部予科から東京大学に進んだ）。

この先の建築まち歩きルートは、2飯倉台地方面か、3高輪台地のいずれかを選ぶ。


三田演説館移設前のジオラマ。震災前を再現。


慶應義塾東館のアプローチ。



2 飯倉台地――増上寺、東京タワー、麻布台ヒルズ、麻布十番

1のルートから、赤羽橋を渡って芝公園沿いに東へ向かい、日比谷通りを北上すると徳川家の菩提寺「増上寺三解脱門」（1622年）に至る。

「増上寺」から「東京プリンスホテル」（1964年）の間を抜けて「東京タワー」（1958年）へ。東京タワーには外部階段で登るのがお薦め（通常の展望料金が必要）。

飯倉交差点の手前の「聖オルバン教会」（アントニン・レーモンド、1956年）は必見。交差点に建つ「ノアビル」（白井晟一ほか、1974年）、「霊友会釈迦殿」（竹中工務店、1975年）、「麻布台ヒルズ」（2023年）、「外務省飯倉公館」（吉田五十八、1972年）などを見てから、狸穴の坂を下って麻布十番へ。

昭和27（1952）年に区画整理事業で生まれた「パティオ十番」には、都市計画家、石川栄耀の思想が込められている。

鳥居坂下の麻布十番公共駐車場前から「ちいバス」に乗って田町駅に戻ることができる。

増上寺

麻布台ヒルズ



3 高輪台地――モダニズム街道、大江宏と丹下健三

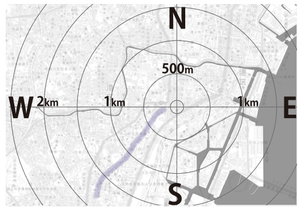
1のルートから南側の正門を出て、桜田通り向かい側を少し右に行ったところの「安全寺坂」を上るコースがお薦め。「潮見坂」を登って「普連土学園中学校・高等学校」（大江宏、1963-68年）を回り込む。中学校の赤い宝形屋根が下からは見えないのが残念。聖坂に出て左へ曲がると「クウェート大使館」（丹下健三、1970年）が見えてくる。この「聖坂」から「二本榎通り」に続く道は、高輪台地の尾根道にあたり、徳川幕府が東海道を整備する以前からある街道で、古代の官道が元になっているといわれる。

二本榎通りを進むと、「高輪消防署二本榎出張所」（越智操/警視庁営繕、1933年）、「高輪台小学校」（東京市、1935年）、「高輪教会」（岡見健彦、1932年）と戦前のモダン建築が集結している。

ここからは4の白金台地に進むか、5の泉岳寺、高輪ゲートウェイ駅方面に下りていくかの分かれ目となる。

クウェート大使館

普連土学園



4 白金台地――明治学院大、港区立郷土歴史館、庭園美術館

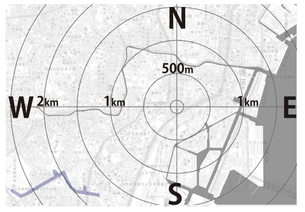
3の「高輪警察署前」を右に曲がり、桜田通りに出ると、「明治学院記念館」（1890年）が見てくる。守衛所で申し込めばキャンパス内の建物の外観を見学できる。なお、2024年11月1日～3日には重要文化財の「インプリー館」（1889年）の内部見学が可能。

桑原坂を登って目黒通りへ。信号を渡って西に進むと右側に「港区立郷土歴史館」（旧公衆衛生院、内田祥三、1938年）が見える。東京大学本郷キャンパスにも見られる「内田ゴシック」と呼ばれる特徴的なデザイン。内部も見学でき、常設展示もまち歩きの参考になる。目黒通りをさらに進んだところにあるのが「東京都庭園美術館（旧朝香宮邸）」（権藤要吉/宮内省内匠寮、アンリ・ラパン、1933年）。11月10日まで「建物公開2024 あかり、ともる」開催中。

都営三田線で三田まで戻ることができる。白金台まで先に行って逆回りもお薦め。

港区立郷土歴史館

明治学院大学



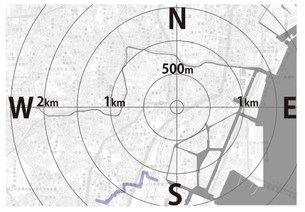
5 泉岳寺、高輪ゲートウェイ駅、高輪築堤、お化けトンネル

二本榎通りから、また、桂坂からも泉岳寺に至る細い路地の経路がある。泉岳寺を見た後、山門から泉岳寺交差点まで来ると、建設中の「TAKANAWA GATEWAY CITY」の3棟の超高層ビルが見えてくる。高輪築堤の「第七橋梁」が発掘されたのは左側の「THE LINKPILLAR 2」と道路の間である。橋梁とは築堤と陸地との間の海と外海をつなぐ舟入に架けられた橋であり、三代歌川広重の「東京品川海辺蒸気車鉄道真景」（明治5/1872年、QRコードのリンク参照）など、多くの浮世絵に登場している。ビルは第七橋梁の遺構の外海側にあり、線路を復元してプロムナードから眺められるように計画されているが、現状では仮囲いによって見ることはできない。

お化けトンネルを見た後は見学を兼ねて「高輪ゲートウェイ駅」から田町駅まで電車で戻ることをお薦めする。

東京品川海辺蒸気車鉄道之真景

高輪築堤出土!



6 芝浦一丁目――雑魚場架道橋、旧花街とバブルの夢

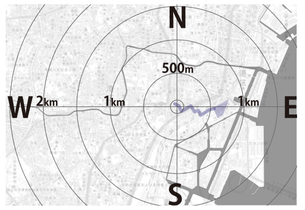
田町駅西口から浜松町方向に歩き、「田町タワー」（2023年）の先を右に折れると神社があり、その先に線路に沿った細長い公園「本芝公園」がある。この場所がかつての「本芝」の砂浜と、築堤の内側の小さな入江であり、線路を潜る「雑魚場架道橋」が舟入の跡とされている。

架道橋の先は明治末から埋め立てが進んだ芝浦一丁目。江戸前の魚を出す料亭街が形成され、やがて都内有数の花街となった。「置屋」「料亭」「待合」を取りまとめて芸者の取り次ぎ等をする「見番」として「協働会館」（昭和11/1936年）が建設された。その後、戦時中に花柳界が疎開するなどで衰退し、保存された協働会館の建物は区の文化施設として使われている。

同じく芝浦一丁目の「第3東運ビル」（竹芝橋倉庫、1973年）の1階には、階高の高い倉庫を転用したディスコ「ジュリアナ東京」があった（1991年から1994年まで）。

旧協働会館

ジュリアナ東京



7 運河地帯と芝浦アイランド

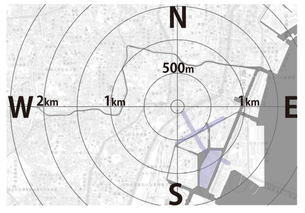
田町駅東口から「なぎさ通り」を進むと、最初に越える運河が「新芝運河」。運河沿緑地の樹木が繁茂し、運河そのものが緑地となっている印象である。

さらになぎさ通り進んで「渚橋」を渡った先が「芝浦アイランド」。UR都市機構がプロデュースし2007年に街開きした。4棟の超高層住宅が建ち並んでいる。防災機能を備えた水辺に親しめる護岸整備など、運河再生のさまざまな試みがなされている。


なぎさ通りより見た新芝運河と運河沿緑地。

芝浦アイランド

新芝運河沿緑地



8 レインボーブリッジ遊歩道

「レインボーブリッジ」（1993年）を歩いて渡ることができる無料の遊歩道。エレベータで登る芝浦の入口から台場側の入口までは、約1.7km。橋の南側と北側のふたつのルートがあり、どちらかを選ぶことになる。歩くと30分ほどかかるので、台場側からはゆりかもめに乗って戻るのもお薦め。

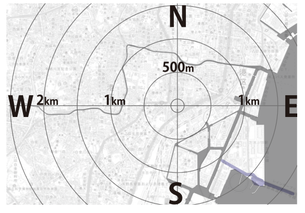
芝浦側の足元には「芝浦南ふ頭公園」があり、水面を間近に感じて行き交う船を眺めることができる。

吊り橋の主塔の間は金網越しの眺めとなるが、柱の外側を遊歩道が巡る部分が展望スペースとなっている。台場側はスロープとなりオープンな景観を楽しめる。

レインボーブリッジの海面から桁下までの高さ52.4mは巨大なクルーズ船を想定したものだったが、客船の大型化が予想以上に進み、世界有数の大型客船が通ることはなかった。


芝浦南ふ頭公園を見下ろす。

レインボーブリッジ



9 芝浦、日の出、竹芝埠頭

大正12（1923）年の関東大震災後の支援物資の受け入れが課題となったことから、ふ頭の開発が加速した。早くも大正14（1925）年に日の出埠頭が完成。続いて芝浦ふ頭（昭和7/1932年）、竹芝ふ頭（昭和9/1934年）が完成する。日の出ふ頭に建ち並ぶ倉庫群は、埠頭が造成された1925年に建てられたもので、東京港最古の倉庫である。いずれのふ頭も水際に立ち入ることができないが、伊豆諸島への玄関口の竹芝ふ頭はターミナルの屋上が展望デッキとなっており、行き交う船とレインボーブリッジ眺める絶好のポイントになっている。日の出桟橋からは浅草や葛西海浜公園への水上バスが出る。

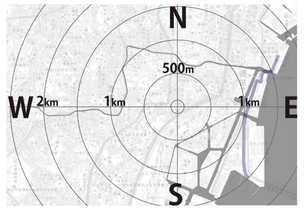
8のレインボーブリッジから歩くには単調な風景が続くので、「日の出駅」までゆりかもめに乗り、日の出桟橋から連絡橋で竹芝ふ頭へ歩くことがお薦め。

竹芝ふ頭から浜松町駅までは徒歩8分。

東京品川海辺蒸気車鉄道之真景

高輪築堤出土!


竹芝埠頭のデッキより見るレインボーブリッジ



0 建築会館と慶応仲通り商店街

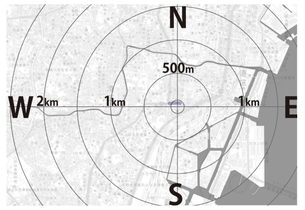
「建築会館」は日本建築学会が所有し管理運営を行っているビル。銀座にあった旧建築会館（昭和5/1930年、現存せず）から、1982年に新築、移転した。2段階のコンペで選定された設計者は秋元和雄（コンペ時は清水建設、その後独立）。近代洋風建築の保存活用が重要課題となった時期で、この建物にも旧会館を部分的に移して保存している。

建築会館の北側は戦前から慶應義塾大学方面への通勤・通学路だった「慶応仲通り商店街」。戦後は普通の商店街だったが、やがて飲み屋街に発展した。細かい敷地割に木造の建物も残る。飲食店舗を配置した建築会館の北側は、商店街と一体となり、独特の雰囲気の界隈を形成している。

まち歩きの後は、ぜひ建築会館中庭に戻って感想をお聞かせいただき、商店街で打ち上げていただきたい。　（大森 晃彦）

建築会館手冊

商店街お店一覧





※一部補正。

左：「江戸切絵図 芝高輪辺絵図」（部分）
嘉 永2/1849年-文 久2/1862年
国会図書館デジタルコレクションより

江戸切絵図
芝高輪辺絵図

江戸大絵図
（画像22参照）



※折りしわを補正。

左:明治東京全図（部分）
明治9（1876）年
国立公文書館デジタルアーカイブより

明治東京全図

地理院地図
（写真/1945年～ 1950年）

AIJ 一般社団法人 日本建築学会
建築文化週間2024

トウキョウ 建築まちあるき

麻布・六本木・赤坂・青山

芝・浜松町・港南

白金・高輪・品川

0 100 200 300 400 500m